EAJ　2012年度決算の説明

２０１３年　2月

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

Emergency Assistance Japan（EAJ）

Emergency Assistance Japan

Ⅰ．EAJの仕事

Ⅱ．業績の概要

Ⅲ．既存ビジネスの拡大

Ⅳ．新規ビジネスの展開

EAJの仕事は海外での困り事の解決（アシスタンス）です！

何も問題のおきていない日常自体が海外では「いつもと違います。」

＝＝EAJは間に入って手配して困った方のお手伝いを致します。＝＝

- 健康
  - 異なった環境
  - 時差、フライトの疲れ
  - いつもと違うスケジュール
  - 事故
- 暴力
  - テロ
  - 政変、紛争
  - 営利誘拐
- 自然災害
  - 津波、ハリケーンなど天変地異
- 社会の仕組みの違い
  - 病院制度の違い
  - 社会インフラ（例/救急車を呼ぶ番号）への知識欠如
- 国家権力
  - 日本とは違います。法律も違います
  - その国の国民ではありません
  - 日本人を同様に守ってくれるとは限りません
- 家族が心配
  - 帯同家族も海外生活です。仕事中はかまえません
  - 遠く離れた留守家族も心配です

対策が必要です。そして最後は「日本に帰れるように」準備が必要です。

EAJの仕事

1.医療アシスタンス

海外での医療事象（病人、ケガ人）発生の際、スムーズな治療が行われるように手配する仕事です。１１９番の中央司令室をイメージしてください。治療のために日本へ帰国する必要がある場合は日本人医療者を派遣して帰国搬送を行っています。

2.コンシェルジュサービス（ライフアシスタンス事業）

会食や旅行などの楽しい機会で、お客様のご要望の実現をご支援（コーディネート）する仕事です。ハイレベルカスタマー向けクレジットカードサービスとして、世界各地で、日本語で、コンシェルジュサービスを行っています。

3.国際医療交流事業

海外から日本の高度先進医療を受診するために来日する外国人患者様に、医療機関の選択、医療ビザの取得サポート、医療通訳その他、渡航前から滞在中、帰国後までワンストップでご支援する仕事と、日本の高度先進医療を海外に輸出する支援を行っています。

EAJの現在

1. 年間15万件のケースを取扱い　　ケース　：　アシスタンス支援を行う案件
2. 年間25万件のコール受け　　コール　：　電話受電数
3. 年間１75件の搬送実績
4. 世界１５０名の日本人コーディネーター体制
5. 東京に２４時間体制の旗艦センターと88名のコーディネーター
6. 北米（ヴァージニア）、欧州（ロンドン）、アジア（シンガポール・バンコク）、中国（北京）に海外センター/ パリ・上海・広州・大連・深セン・天津に自社海外駐在員事務所
7. ２０８カ国のエージェント（ヨーロッパアシスタンス、IAGグループ、Mutuaid、Maphre他）
8. 自社構築したおよそ3,000の日本人向け海外医療機関データベース
9. 自社開発の最先端日本語ケースマネージメントシステム「NEO」
10. 各拠点間の自社専用線による通信ネットワーク　自前Voip社内電話網
11. エマージェンシーサービス、コンシェルジュサービスを天職とする多数のコーディネター
12. 日本で唯一の日本資本アシスタンスワールドプレイヤー
13. 自社開発の「ワールドクレームオペレーション」システム（世界決済機能）による世界各地への迅速支払およびトレーシング管理（送金がどの段階にあるかの管理）、請求処理業務全般の管理が可能
14. 海外拠点で請求書類を受領後２週間で世界各地医療機関へ着金の体制

Emergency Assistance Japan

Ⅰ. EAJの仕事

Ⅱ. 業績の概要

Ⅲ. 既存ビジネスの拡大

Ⅳ. 新規ビジネスの展開

2012年度業績トピックス

- 売上高　　1,892百万円
  営業利益　　147百万円
  経常利益　　129百万円

- ６月20日、ＪＡＳDAQ市場へ株式公開
- 過去最高の海外出国者数を背景に、アシスタンス案件数も過去最高を記録
- 日本人旅行者や駐在員等が増加している東南アジア地域のサービス強化を目的に、 タイ子会社アシスタンスセンターの営業時間を拡張（24時間365日）
- 日本企業の進出加速が期待され、日本の高度先進医療への期待も高いバングラデシュに合弁会社を設立

Emergency Assistance Japan

2012年度連結損益業績（単位：百万円、パーセント）

	2011年度		2012年度		
	実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上高	1,610	100.0	1,892	100.0	117.5
売上原価	1,144	71.0	1,387	73.3	121.2
売上総利益	466	29.0	505	26.7	108.4
販売管理費	294	18.3	357	18.9	121.5
営業利益	171	10.7	147	7.8	85.9
経常利益	163	10.2	129	6.8	78.7
当期純利益	166	10.3	75	4.0	45.3

セグメント別売上高（単位：百万円、パーセント）

	2011年度		2012年度		
	売上高	構成比	売上高	構成比	前期比
医療アシスタンス事業	1,325	82.3	1,541	81.5	116.3
ライフアシスタンス事業	285	17.7	350	18.5	123.0
P/L計上額	1,610	100.0	1,892	100.0	117.5

セグメント別利益（単位：百万円、パーセント）

	2011年度	2012年度	
	セグメント利益	セグメント利益	前期比
医療アシスタンス事業	346	339	97.9
ライフアシスタンス事業	59	102	172.6
調整額※	△233	△294	125.7
P/L計上額	171	147	85.9

※調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと。
セグメント利益は連結損益計算書の営業利益と調整を行っている

2013年度連結業績予想（単位：百万円、パーセント）

	第2四半期累計期間			通期		
	2012年度	2013年度	前期比	2012年度	2013年度	前期比
売上高	989	1,050	106.2	1,892	2,082	110.0
営業利益	60	55	92.0	147	165	112.0
経常利益	42	47	111.2	129	155	120.3
当期純利益	25	29	115.5	75	95	126.0

※売上実績の無い、もしくは契約を締結していない新規事業については業績予想に加算しておりません

Emergency Assistance Japan

Ⅰ. EAJの仕事

Ⅱ. 業績の概要

Ⅲ. 既存ビジネスの拡大

Ⅳ. 新規ビジネスの展開

EAJの成長ステップ

スコープ1

日本人向けアシスタンスNo.1企業のポジション確立

①既存ビジネスの規模の拡大

②現行インフラを活用してのサービスの展開

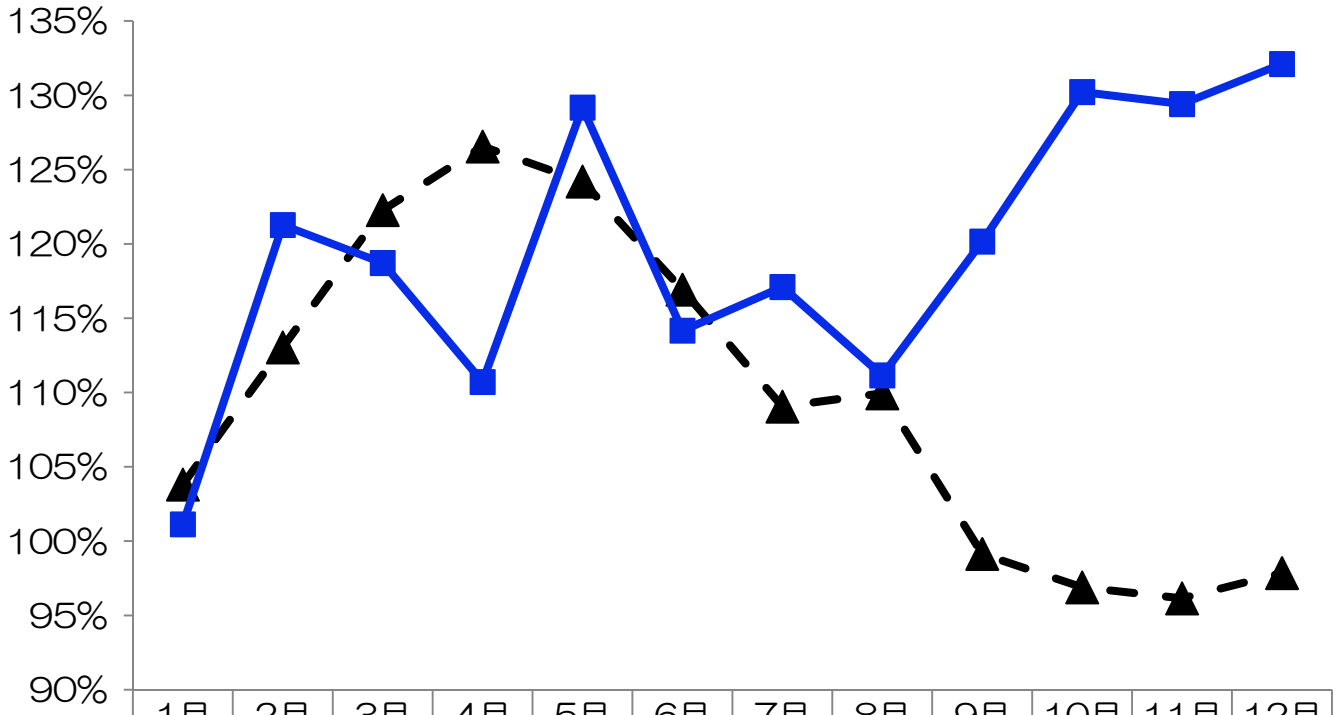
スコープ2

世界基盤のより広範囲なアシスタンス企業への基礎作り

①アジア諸国におけるアシスタンスビジネスの開始

②国際医療交流事業

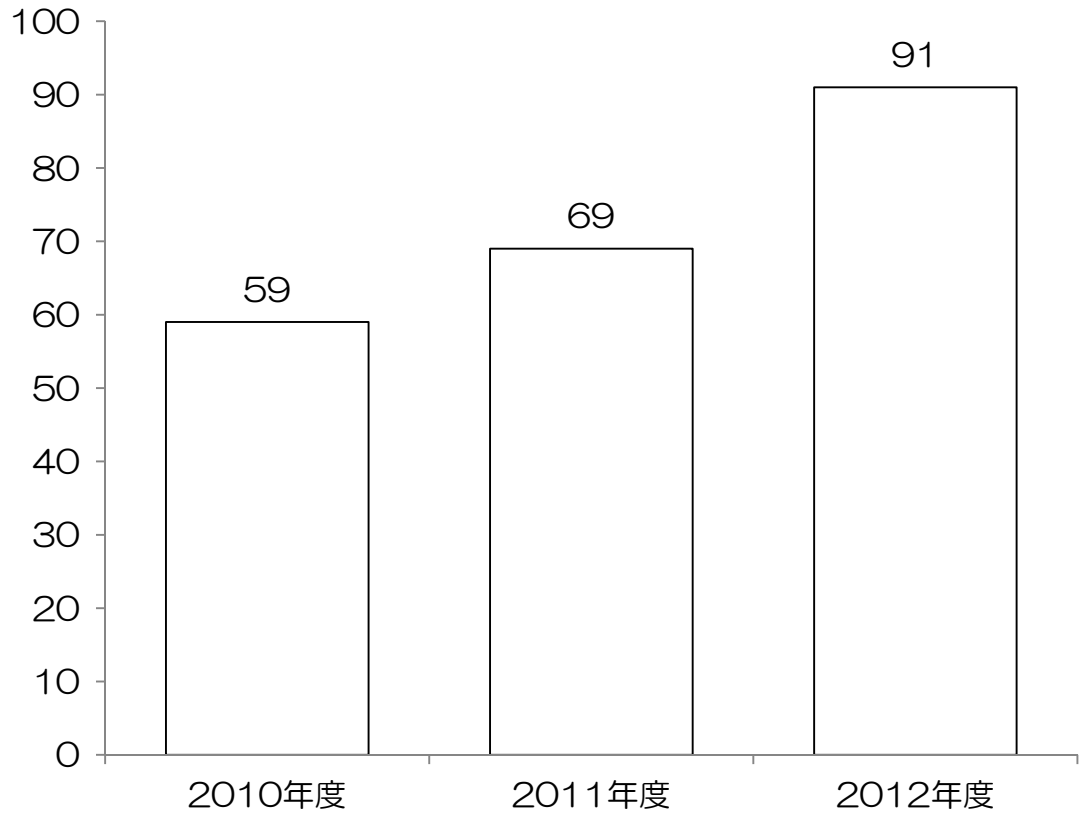
医療アシスタンス事業：
海外出国者数と案件数の推移（前年同月比）



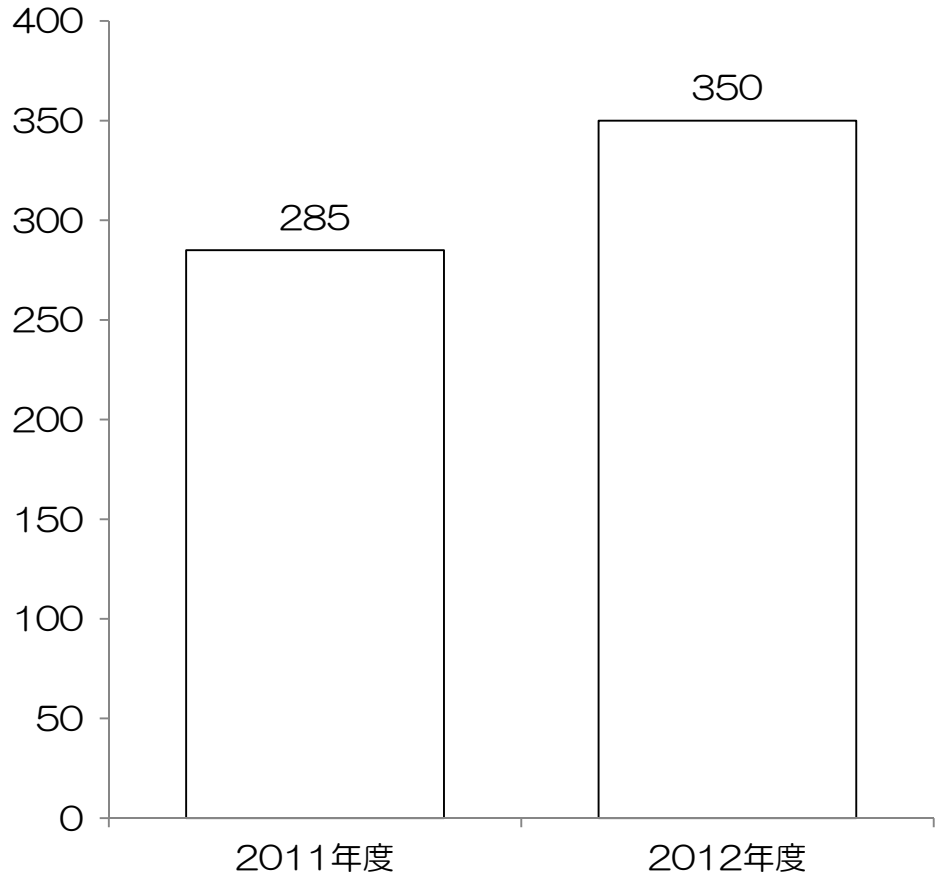
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
海外出国者数	104%	113%	122%	127%	124%	117%	109%	110%	99%	97%	96%	98%
案件数	101%	121%	119%	111%	129%	114%	117%	111%	120%	130%	129%	132%

資料：海外出国者数は『平成24年　出国日本人数推計値』JNTOを参考とした。
また、案件数は、当該年度新たに契約したビジネスを除いた、既存ビジネスの対比

医療アシスタンス事業：
自社販売における契約法人数の推移（単位：法人）



ライフアシスタンス事業：
売上高の推移（単位：百万円）



Emergency Assistance Japan

Ⅰ．EAJの仕事

Ⅱ．業績の概要

Ⅲ．既存ビジネスの拡大

Ⅳ．新規ビジネスの展開

スコープ1

日本人向けアシスタンスNo.1企業のポジション確立

①既存ビジネスの規模の拡大

②現行インフラを活用してのサービスの展開

スコープ2

世界基盤のより広範囲なアシスタンス企業への基礎作り

①アジア諸国におけるアシスタンスビジネスの開始

②国際医療交流事業

Emergency Assistance Japan

セキュリティーアシスタンスの強化

アルジェリアでのテロリストによるサイトアタック

↓

日本企業の意識の変化
海外赴任従業員の意識の変化 ⇒ 安全配慮義務を強く意識

医療アシスタンスのみでは不十分

日本企業のニーズに合った日本型セキュリティーアシスタンスサービスの必要性

２０１３年度は基盤作りへ着手

スコープ1

日本人向けアシスタンスNo.1企業のポジション確立

①既存ビジネスの規模の拡大

②現行インフラを活用してのサービスの展開

スコープ2

世界基盤のより広範囲なアシスタンス企業への基礎作り

①アジア諸国におけるアシスタンスビジネスの開始

②国際医療交流事業

東南アジアのサービス体制強化

２０１２年度　タイセンターの拡大　２４時間対応化
　日本企業の中国からの生産拠点のシフトに対応

２０１３年度も人員増強を継続
　保険会社向けサービスの受託能力の拡大

２０１３年度　バングラデシュ現地法人の整備
　日本企業駐在員向け日本型クリニック、アシスタンスサービスの開始
　バングラデシュ国民向け、日本の高度医療治療の窓口機能

スコープ1

日本人向けアシスタンスNo.1企業のポジション確立

①既存ビジネスの規模の拡大

②現行インフラを活用してのるサービスの展開

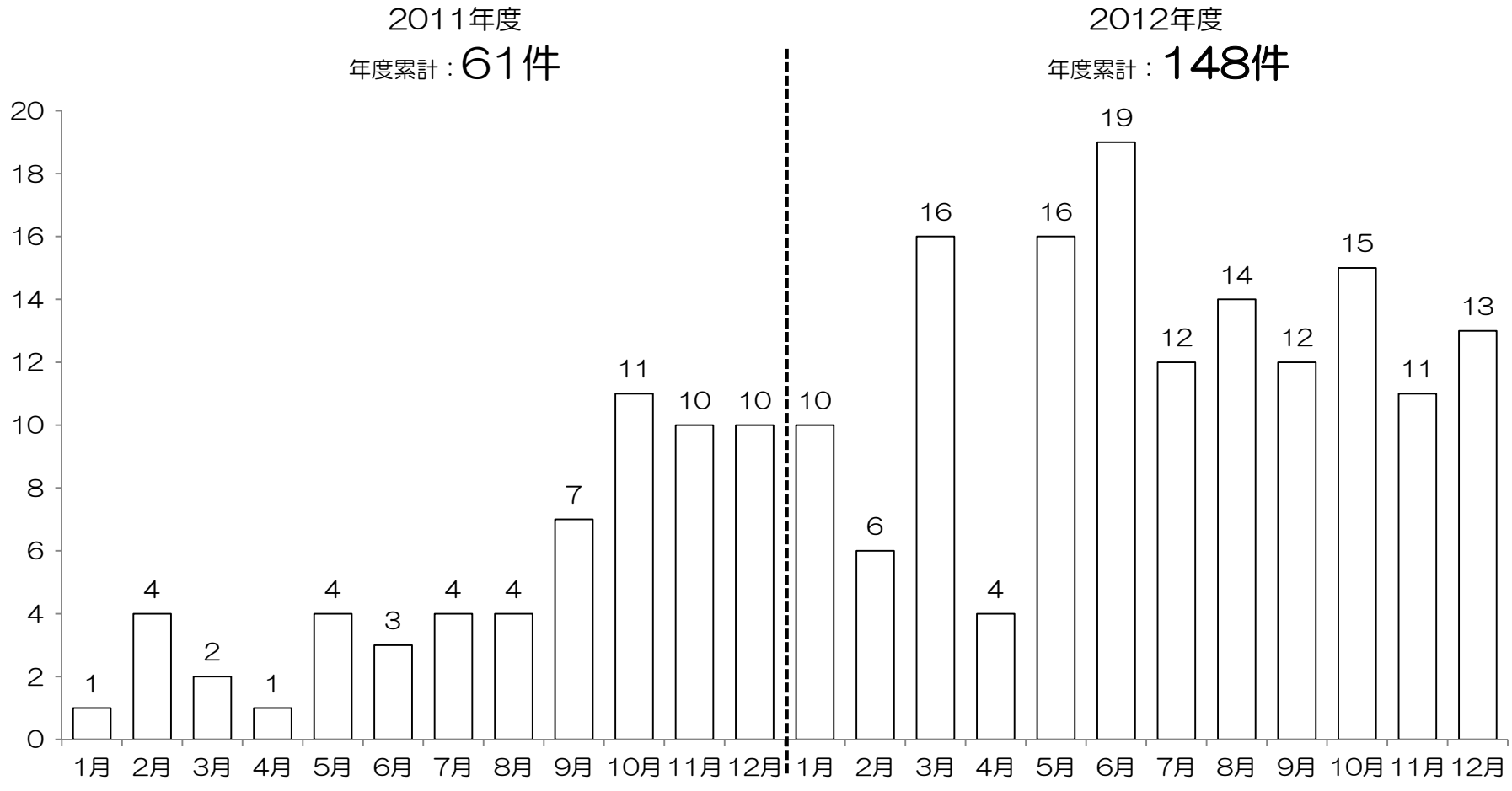
スコープ2

世界基盤のより広範囲なアシスタンス企業への基礎作り

①アジア諸国におけるアシスタンスビジネスの開始

②国際医療交流事業

インバウンド受入数の推移



Emergency Assistance Japan

アウトバウンドの重点地域

以下3地域に重点を置き、日本の医療輸出（アウトバウンド）を支援する

① アラブ首長国連邦（ＵＡＥ）

② カザフスタン

③ インドネシア

本説明会及び説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

Copyright ©Emergency Assistance Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.